

事業計画書

事業名		幼児に対する防災体験プログラムの普及と 保育者・支援者向け防災講演会
グループ名		こどもの防災を考える「ちゃやっこ・こっこプロジェクト」
代表 団 体	名称	一般社団法人チカク
	住所	倉敷市茶屋町 353-42 〒710-1101
	担当者	赤木 美子
	電話番号	080-2900-8110
	E-mail	ekinotikaku@gmail.com

1 現状と課題

(1) 地域の状況や市民ニーズ

東日本大震災から始まり、南海トラフ地震の被害想定が発表されるなど、防災意識が高まっている中、小中学校では、防災教育が少しずつ浸透してきているが、幼児に対する防災体験プログラムを学べる機会は不足している。

2011年に一般社団法人チカクが「子ども防災ネットワーク岡山」としてスタートした幼児向けの防災教育の出前事業には、これまで42回2700人程度の参加実績があり、不定期に求められるこうした体験プログラムのニーズに対して、担い手の育成と、もっと広域での活動の必要性を感じている。

今回、パートナーとなるNPO法人きよね夢てらすのある清音地区は、洪水があれば5分で水没するという地域であり、防災教育の必要性を強く感じているとのことであった。

(2) 本事業で取り組む地域課題

- ・ 高梁川流域で、洪水があると水没するという清音地区のなかで、子ども防災に関わる人を増やし、幼児期の子どもたちを対象に災害イメージのわく防災体験プログラムを実施する担い手を、育てていく。
- ・ 想定外のことが起きた時に、自ら考えて動き、自分の命を助けることのできる子供を育てていくこと。

事業の形式 次のいずれか該当する事業の形式に☑をしてください（両方でも可）。

実践を通じてグループ内でノウハウを受け継ぐ事業
グループ内の団体それぞれが持つノウハウを持ち寄り，地域の新たな催しや地域資源を開発する事業

2 目的と概要

(1) 事業の目的

親子、および保育関係者、子育て支援者に対して、防災講演会やワークショップおよび防災体験プログラムの普及を行い、地域の防災意識向上を図るとともに子ども向け防災プログラムの担い手を育てること。

(2) 事業の概要

- 1 具体的な災害イメージの湧く防災講演会、防災ワークショップを通じて、保護者、支援者に対しての防災意識を高めるレクチャーを行う。災害時、避難所における女性の役割の重要性に鑑み、このプロジェクトでは、専門的知見を有する防災のスペシャリストとして、小学生以下のこどもを持つ女性を想定している。
 - ・ 1 - A = 危機管理教育研究所代表、危機管理アドバイザー国崎 信江(くにざきのぶえ)氏による保育園・幼稚園向けの防災ブックをベースとした講演
 - ・ 1 - B = 中四国で想定される災害、地域の古地図から読み解く由来のワークショップ(想定)
2. 親子、および保育関係者、子育て支援者に対して、防災体験プログラムの普及を行い、地域の防災意識向上を図ること。具体的には、現在、一般社団法人チカクが5歳児向けに行っている防災体験プログラムのノウハウを、総社市のNPO法人きよね夢てらすの子育て支援のグループ(子育て応援こっこ)に伝え、倉敷 - 総社圏域での防災体験プログラムのニーズに応えるものとする。
 - ・ 2 - A = これまでの活動紹介と、一般社団法人チカクの防災士資格を持つスタッフによるデモンストレーション、保育園などでのプログラム実施への見学、実施
 - ・ 2 - B = 地域ならではの課題の洗い出しと、それぞれの活動への還元。総社と倉敷でそれぞれ地域子育て拠点(ちゃやっこひろば・チカク、子育て応援こっこ)を運営している二つの団体として交流を深め、地域の子育て中の親子のさまざまな課題について、行政区を超えて協力できる体制を築く。

3 受益者と効果

(1) 事業の受益者

- ・ 子どもに対する防災活動に興味のある、倉敷・総社および高梁川流域の子育て中の保護者および子育て支援者
- ・ 子ども防災体験プログラムを学び実践する、総社で地域子育て支援拠点を運営する「子育て応援っこ」および所属するNPO法人きよね夢てらすのみなさん
- ・ 防災体験プログラムの担い手を増やすという点では、一般社団法人チカクおよび所属する子ども防災ネットワークおかやま

(2) 事業の実施に期待する効果

- ・ 地域の防災力の向上。とくに災害弱者となる母子の存在を関係者が強く認識すること。
- ・ また出来事に対して主体者として取り組む気概をプログラムの担い手を感じる。
- ・ 子どもたちが、自らの命を守る「姿勢」を育むことができるようになること。これは災害に限らずその後の人生に有用な振り返りの機会となると考えており、少なくとも、災害に遭遇したときの自分、家族、友人などについて、考えるきっかけになること。

4 ノウハウとその有効性

ノウハウとは、団体が過去に実施した活動の中で学んだ、成功や失敗の経験を活かした、地域の課題解決に有効な手法や技術などの知識をいいます。

一般社団法人チカクは、全労済岡山県本部の呼びかけに応じ、県内のNPO法人と「子ども防災ネットワークおかやま」の設立に参加し、防災関連のイベントを企画運営したほか、2011年11月から2016年1月までで、42カ所2700人が参加する体験プログラムの実施実績があり、現在も保育園・幼稚園・公民館・社会福祉協議会などの求めに応じて県内各地を訪れている。(詳しくは別紙)

今回、行う防災体験プログラムは、講師として招聘予定の国崎先生監修のものであり、2011年11月にレクチャーを受けてから、それぞれが防災士の資格を取得するなどして、研鑽に努めている(現在女性防災士5名)。関東圏からの視察も受け入れているほか、海沿いの中学校、小学校でも実施実績がある。また、テーマパークでの数十人から4000人規模のイベントの開催実績のほか、さまざまなワークショップを開催している。

子ども防災ネットワークおかやまのホームページおよびブログの管理も行っており、こどもの防災という全国的にも特化した分野に対する問い合わせなども受け、必要があれば識者に繋いでいる。

5 事業内容とスケジュール

(1) 事業の具体的な内容

防災講演会「こどもの防災を考える」～ 防災体験プログラム@倉敷・総社

- ・ 国崎先生の「園防災」をベースに、小さな子にたいする防災教育について学ぶ。
- ・ デモンストレーションの実施 | 倉敷市内の保育園・幼稚園などで、チカクが 2011 年から行っている、国崎先生監修の「防災体験プログラム」を実施、連携先のメンバーはその内容を確認、テキストをもとに各自練習する。
- ・ 連携先の本拠地である総社市内の保育園・幼稚園で防災体験プログラムの実施、新メンバーも順に教える側として加わっていく。

防災ワークショップ 「中四国の現状と地域を知る」

- ・ 倉敷及び連携先で、ワークショップを実施する。
- ・ それぞれの地域にあった防災について考える。

(2) 事業のスケジュール

7月	詳細の決定、市町村の広報誌などへのパブリシティ出稿 チラシの作成
8月～ 9月	チラシの配布、SNS、HPなどへの掲載 防災体験プログラムの見学
10月	26日 国崎先生講演会(くらしき健康福祉プラザ 午後)
11月 ～1月	防災体験プログラムの実施～振り返り
2月 ～3月	報告書の作成

6 目標

内容	現状	目標値
体験プログラムの担い手	2 人	5 人
プログラム実施回数	1 0 回 / 年間	2 0 回 / 年間

7 事業完了後の取り組み

補助金の交付条件として、事業の完了後 1 年以内に、事業の成果を活かした取り組みを実施することとしています。事業の成果が継続して地域に根付くのに有効な取り組みであれば、その規模や内容は問いません。

(1) 主となる団体名 一般社団法人チカク、NPO 法人きよね夢テラス(子育て応援っこ)

(2) 取り組みの概要

総社市内で防災体験プログラムを実施、きよね夢てらすのなかに担い手が育つよう、複数回あるいは継続して一緒に開催していくことで習熟度をあげていく

収支予算書

	所属・役職	氏名
経理責任者	一般社団法人チカク	崎野 安代
経理担当者	一般社団法人チカク	野山 博子

1 収入の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
補助金		750,000	
その他	自己資金	70,520	
収入合計		820,520	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
スタッフ人件費	防災プログラム	108,000	@900*6人*4時間*5回
	講演会など	64,800	@900*6人*6時間*2回
謝金	講師謝金	300,000	
旅費交通費	講師、スタッフ	84,720	JR、GS代など
消耗品費	ハンドブック	10,000	園防災ハンドブック5冊
	コピー用紙	2,000	500枚*5
	メガホン	11,000	サイレン付きメガホン11,000ほか
印刷製本費	プリンターインク	7,000	Amazon
	コピー代	1,000	
通信運搬費	郵便代	7,000	@140*50
保険料		15,000	
使用料・賃借料		10,000	会場使用料
外注費・委託費	音響	130,000	音響80,000 チラシ作製・印刷50,000
対象経費計		750,520	
食糧費		20,000	
その他	企画制作管理費	50,000	
対象外経費計		70,000	
支出合計		820,520	(収入合計と一致)